

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 1F

事業所番号	2371001674		
法人名	株式会社 フレンズホーム		
事業所名	グループホーム フレンズハウス中島新町		
所在地	名古屋市 中川区 中島新町一丁目502番地		
自己評価作成日	平成28年9月22日	評価結果市町村受理日	平成29年1月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigvosyoCd=2371001674-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成28年11月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日を、自宅で暮らしているように過ごしていただきたい
 毎日を明るく楽しく過ごしていただきたい
 そのために、できるだけ自由に過ごしていただきたいと考えている。特に居室内は、利用者様が自由に過ごせる空間であるため、落ち着いて気楽に過ごせるように工夫している
 さりげない声掛けを行い、親しみと信頼感を築くことに気を配り、その上で、残された能力を発揮できるように支援して行きたいと、職員一同、同じ方向性を持って努めている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは、毎日の申し送りをユニット毎に行っていることもあり、利用者一人ひとりの把握と情報の共有が日常的に行われている。職員間での情報交換から介護計画の内容の見直しにつながったり、利用者への新たな支援にもつながっている。運営法人では、複数の介護事業所を運営していることもあり、関連事業所の管理者間の定期的な会議が行われている。会議では、現場からの意見等が話し合われたり、法人事務局で把握した情報の提供等が行われており、ホーム運営への反映につなげる取り組みが行われている。また、地域の方との交流については、法人代表者が地域の住民であり、地域の自治会の役員を務めている関係でもある。運営推進会議にも法人代表者が出席しており、地域に関する情報提供が行われている他、地域の方にホームへの理解を深めてもらう機会にもつながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	提示してある理念に基づき、明るく楽しく安心して生活できるように努めているが、地域密着型サービスの意識が薄い職員もいるため、話し合うことが必要かと思っている	法人の基本理念に掲げている内容をホームの支援の基本に考えながら、カンファレンス等の機会に伝え、職員間での共有と実践につなげている。理念をリビングに掲げており、日常的に振り返るように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	公園の掃除、地域の行事などに参加している 散歩時など、地域の人達と挨拶を交わすなどしている	ホームは自治会に入っている他、法人代表者が自治会の役員を務めていることもあり、地域の方との情報交換等の機会にもつながっている。また、中学生の職場体験の受け入れも行われており、地域貢献につながる活動も行われている。	現状、地域の方との交流の機会が限定的な範囲となっている。法人代表者が地域住民であるため、今後に向けたホームの取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	ボランティアなどに来ていただいた時、理解していただいている 人材育成として、実習生の受け入れに積極的である	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	他の施設の取り組みや自施設での取り組みを報告し合い、より向上できるよう、話し合いや助言をもらっている	会議の際には、法人代表者が地域住民としても参加していることもあり、地域の関する情報交換にもつながっている。会議を通じて、出席者にホームを知ってもらえるような働きかけも行われている。	会議の出席者が、現状、内部の関係者が中心になっている。法人代表者以外の地域の方や家族への出席への継続した働きかけに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	いきいき支援センターとは、相談や情報交換をしている 区役所の保護係の方とも、情報のやり時を行っている 町内の方も回覧板を回していただき、情報を提供してもらっている	生活保護の方の受け入れを通じた、市の担当者との情報交換等が行われている。市の研修会等の際には、職員が参加している。また、地域包括支援センターとも研修会等、交流の機会をつくるようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	拘束をしないケアを理解し、実際に行っている	日中は玄関は開いている他、ユニットの入り口もボタンで出入り可能な為、職員間で利用者の見守りが行われている。利用者により、安全面の確保もあり身体拘束等の検討も行われているが、職員間で見守り対応で解決した事例がある。	ホームでは、身体拘束を行っていないが、職員間での振り返り等が充分に行われていない面が見受けられる。定期的な振り返りの研修会等を設ける等、ホームの取り組みに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待の問題は起きていない 家族に、ストレスは無いのか聞き、入浴や着替えの時、見過ごさないようにしている	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修があれば参加できる態勢はあるが、なかなか機会がないため、内容はあまりよく分らない。知る機会が少ない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約はきちんと説明の上納得していただいている改訂があれば、すぐ文書で家族に連絡し、質問があれば、答えている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会の時など、家族が意見や要望を、遠慮せずに伝えられるよう、こちらも積極的に話掛けている 家族は、言いたいことは、はっきりと言ってくれていると思っている。意見は職員で話し合い、運営に反映させている	家族からの要望等については、ホーム管理者の他にも、法人事務局にも伝えることが可能であり、実際に法人事務局が対応することもある。また、ホーム内に意見箱を設置したり、ホーム便りの他にも行事カレンダーを送付している。	家族との面談や交流の機会が限られた範囲となっている現状がある。ホームからの働きかけを継続しながら、ホームの行事への参加等、家族との交流の機会が増えることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	意見がある時は、会議にて提案する	毎日2回、ユニット毎に申し送りを通じたミーティングの機会をつくっており、日常的に職員間での話し合いが行われている。また、法人の関連事業所との管理者会議があり、現場職員からの意見等を報告し、ホーム運営への反映につなげる取り組みが行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	ボーナスも無く、昇給も少ないため、やりがいを感じない 代表者も、整備に努めているとは思えない 交付金を給与に反映してくれている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	パート職員にも、研修や会議等に参加の機会がある 研修内容を報告する機会をつくっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	内部研修をおこなって、交流や、一緒に学ぶ機会を設けている 管理者は月1度の運営会議で交流と情報交換を行っている 全施設合同で納涼会、忘年会を行い、交流を深めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	よく話を聞き、理解し、安心してもらえるよう努め、家族に電話したり、買って来て欲しい物などの要望に、できるだけ応えるようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	帰宅願望や、要求など理解し、本人が安心できるように努め、家族にも安心していただけるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入所者にとって、まず必要なサービスを取り入れ、安全を見極めて、楽しんで生活していただくよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者様が、自分でできることは、やっってもらっている 食事の後片づけなどを手伝っていただき、必ず感謝の会話を心掛けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	自分の家族、親だったとしたら、と常に考え、それぞれの気持ちを大切に、家族が仲良くできるよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人が希望すれば連絡し、面会に来ていただいたりしている	入居前からの関係の方がホームに訪問することがあり、時には一緒に外出することもある。美容院や喫茶店等の馴染みの場所への外出も行われている。また、利用者により、家族との外出の機会が得られており、自宅に戻り家族と過ごしている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様同士、フロアで談話したり、居室へ入ったり来たりなど、関わり合いができ、楽しんでいただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	本人や家族が、支援を希望すれば、その都度対応している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	買い物食事など、希望があれば、その都度対応しているし、言葉や表情などから、意志を確認するようにしている	ホームでは、毎日の申し送りの時間にミーティングが行われていることで、職員間での利用者に関する情報の共有につながっている。職員間で把握した情報は、毎月のカンファレンスにも反映され、定期的なアセスメントにつながっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時のサマリーや、申込み書の状況書などで、これまでの生活状態を理解している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一日の生活の中で、一人々々の生活のリズムを理解し、行動、動作、回りとの関わり方を観察し、ADLや全体像を把握している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	意見やアイデアをケアマネに相談し、話し合いをしたり、申し送りなどでも話し合っている	介護計画の見直しの期間についてはユニット毎で異なっているが、モニタリングについては3か月で実施しており、状態の変化の把握と介護計画の見直しにつなげている。また、職員間で毎日のチェックが行われており、日常的な把握が行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録に、食事、水分量、排泄、日々の様子、言った言葉など記録し、いつでも職員が確認できるようにしてある		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ADLの低下に伴い、その都度話し合い、合ったサービスの提供をしたり、通院、外泊、訪問など、家族の要望に対しても、臨機応変に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	大正琴、フラダンス、落語などのボランティアの方に来ていただいて、楽しい時間を過ごしている。学生の体験訪問も受け入れ、楽しい時を過ごしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	施設の協力医による、月2回の往診を受け、連絡を取り合い把握している 家族の希望があれば、他の医療機関へ通ってもらっている	訪問診療を専門とする医療機関を協力医としており、随時の連絡等が可能な関係がつけられている。ホームによる受診支援も行われており、状態変化に合わせた対応が行われている。また、定期的な訪問看護による健康チェックも行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	早期発見に努め、変化があれば、訪問の時伝えて診ていただき、助言や対応してもらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	すぐにサマリーや、かかりつけ医師からの情報提供書を提出し、相手との情報交換も密に行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ADLの低下や、重症になった場合、家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、より安心した最期が迎えられよう取り組んでいる	看取りを見据えた支援については、可能な対応を行う考えであるが、法人の関連に特養があるため、次の生活場所の案内も行われており、家族との話し合いが行われている。また、職員研修の機会がつけられており、急変時等の対応が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルを準備しており、それに添って対応している 傷の処置も決められた方法で行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に避難訓練を実施している	年2回の避難訓練の際には、夜間を想定した訓練や通報装置の確認が行われている。また、ホーム内に水や食料の備蓄品の確保も行われている。なお、地域の方との協力関係については、継続したテーマでもある。	地域の方との協力関係の構築が難しい現状が続いているが、ホームで協力可能な内容を検討しながら、地域の方への継続した働きかけに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入室の際は、ドアをノックし、名前を呼ぶ失礼のない言葉掛けで人格の尊重をしている 同じことを何回言っても、その都度対応し、安心していただいている	職員が利用者に対する言葉遣いや態度については、日常的に行われている申し送りの時間に話し合われることがある。また、接遇面に関する外部研修に職員が参加できるような取り組みも行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人が考えるまで待ち、決める場をつくっている 思いや話をよく聞いて、本人が決めたことに基づいた要望に応えている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1人々々のペースを大切にしている 納得していただけるよう対応し、尊重し、個別の支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	時節、個々の生活習慣、生活感に気を付け、支援している 希望に合わせ、カット、毛染め、パーマも、してもらえるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者様の好み、苦手を踏まえたメニューを工夫し、一緒に食事をするにより、楽しんでいる 茶碗拭き、テーブル拭きなど、負担のないよう手伝ってもらっている	メニューを職員間で検討しており、利用者の希望や好みに合わせた対応も行われている。利用者も状況等に合わせて職員と一緒に調理や片付けに参加している。また、喫茶や外食の楽しみが行われている他、食事の際には職員も一緒に食事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	摂取量は個人ファイルに記入し、確認して、個々に合わせて、食べやすいものや量を考えている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	声掛けして口腔ケアしていただき、できない方には、介助して行ってもらっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	自分でできることはやってもらうが、声掛けやリハパンの確認、利用者様の状態により、ポータブルトイレの使用など考慮している 排泄の自立の支援をしている	利用者の身体状態等に合わせた排泄記録を残しており、日常的な申し送りと合わせて、職員間でトイレへの声かけのタイミング等の情報を共有するよう取り組んでいる。利用者により、排泄状態が改善した方や現状を維持できるように取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘を解消させる食べ物を取り入れたり、水分摂取、牛乳など飲んでもらっている薬の処方なども相談して服用してもらっている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	入浴日は決めて行っているが、拒む人への言葉掛けの工夫やら、一人々々の好みに合わせた入浴支援を心掛けている	ユニットにより、利用者の状況等にも合わせながら入浴実施の曜日等が異なっている。1階のユニットにはリフトの設置が行われており、重度の方にも対応している。また、ホームから入浴施設に出かける取り組みも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	晴天時には布団を干したり、気持ち良く休んでいただけるよう工夫し、食後や入浴後は、なるべく居室で休んでいただけるよう声掛けしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	飲み忘れがないよう気を付け、必ず手渡しして飲んでもらう 変化があれば、医師や看護師に相談している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	食事の前後の手伝いをしている 本人の気持ちや力量を見て、見合ったお願いをし、感謝の言葉を伝えている 好きなものを聞いて買っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。	喫茶ツアーや外食ツアーを行っている 行ける方は、旅行も企画しているし、家族と一緒に掛けてもらっている	日常的に外出するよう取り組んでおり、利用者により、1日に2回外に出ている方もいる。喫茶や外食ツアー等、定期的な外出の他、季節に合わせた外出行事も行われている。また、法人の関連事業所と合同で市外の施設に出かける取り組みも行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	管理できる方は所持している 自己にて買い物をする方もいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族、知人、友人との手紙のやり取りや、電話のやり取りは、できる方には自由に行ってもらい希望にて携帯を持っている方もいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有空間は、飾り付けに配慮し、常に明るく、温度の調節にも心掛けている 毎日の掃除もかかさず	ホームのリビングの窓が南を向いていることで、採光に優れた環境でもある。また、リビングや通路の壁には様々な飾り付けが行われており、ホームでの様子を写した写真と合わせて、雰囲気づくりが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアは視界に入りやすく、ソファが置いてあり、気の合った利用者様同士、テレビを見ながら談話したり、独りでも気楽に過ごしていただいている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家具、雑貨など、馴染みの物を持って入所していただいております、自分の家だと、安心して思えるよう過ごしていただいております	日常的に化粧をしている方には専用のドレッサーが持ち込まれてあり、利用者の意向に合わせた居室づくりが行われている。また、利用者により、親族の位牌や仏壇の持ち込みが行われている他にも、季節に合わせたこたつ等を設置している方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すり、スロープが設置されており、トイレなど、分りやすく貼り紙をしたりして、できることは、自力で安全に行えるよう工夫している		